

2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

2025年2月7日

東京計器株式会社 (証券コード 7721)

TOKYO
KEIKI

発表のポイント

1

2025年3月期 第3四半期

防衛・通信機器事業の増収により、前年同期比で増収・増益。

売上高	34,241 百万円	前年同期比	+3,537 百万円 
営業利益	1,054 百万円	前年同期比	+886 百万円 

2

2025年3月期 通期見通し

前回見通しから業績予想を修正。営業利益は過去最高の見通し。

売上高	57,400 百万円	前回予想比	▲900 百万円 
営業利益	4,570 百万円	前回予想比	+470 百万円 
営業利益率	8.0 %	前回予想比	+1.0 %ポイント 

3

受注の状況

第3四半期までの受注高は過去最高、受注残高も過去最高を更新。

受注高 3Q累計	47,603 百万円	受注残高 3Q末	58,084 百万円 
----------	-------------------	----------	---

資料の内容

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

売上高・損益

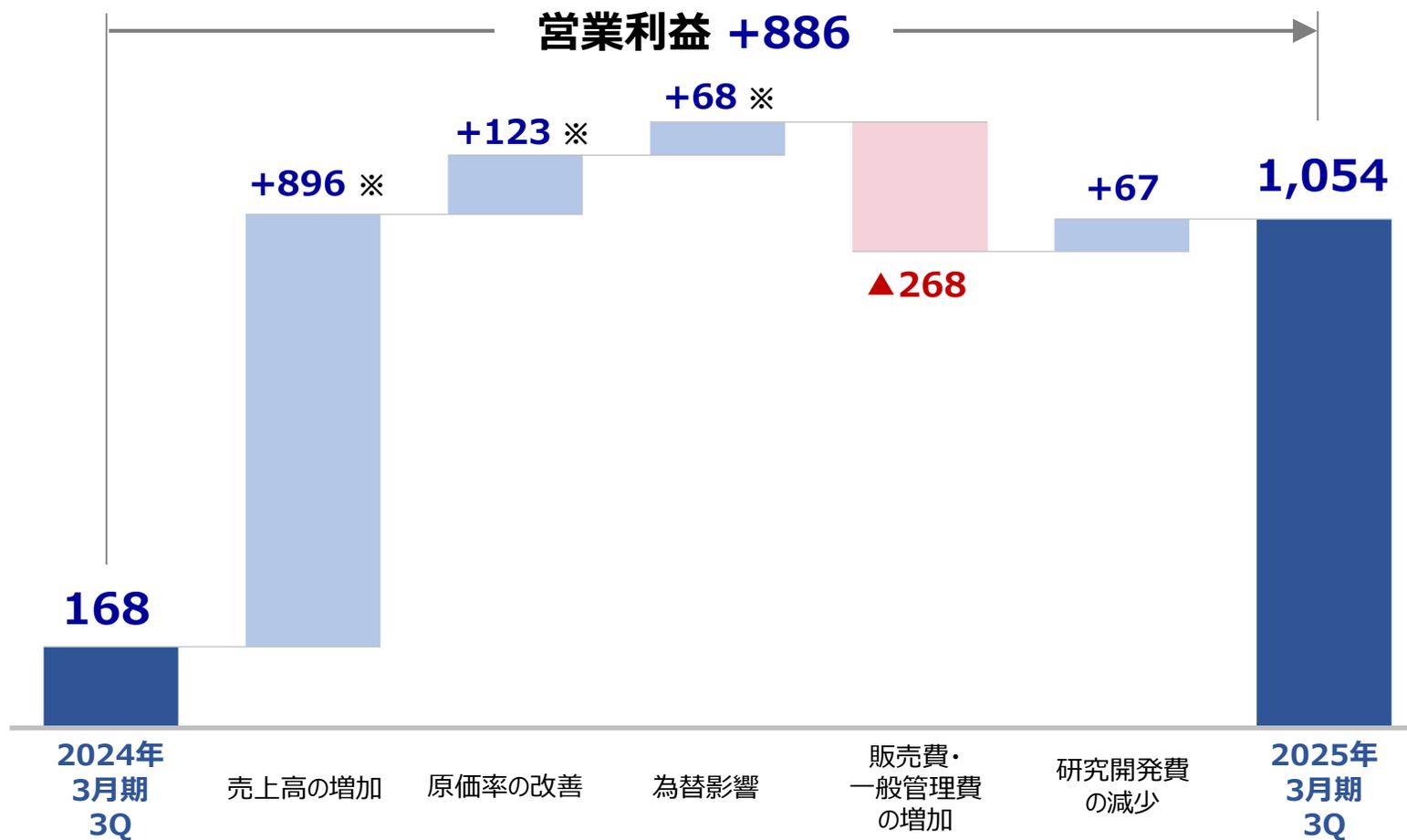
単位：百万円	2024年 3月期 3Q	2025年 3月期 3Q	増減額	増減率
売上高	30,704	34,241	+3,537	+11.5%
営業利益	168	1,054	+886	+527.1%
経常利益	346	1,229	+883	+255.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	118	932	+814	+691.1%
為替レート (円/USD)	143.23	152.12		

- 売上高は、防衛・通信機器事業が貢献し、全体として増収。
- 好調を継続する船舶港湾機器事業および、下期偏重の防衛・通信機器事業が貢献し、大幅に増益。

営業利益増減

単位：百万円

※推計値



- 売上高の増加
船舶港湾機器事業と防衛・通信機器事業が大きく増益に貢献。
- 為替影響
前年同期143.23円/USD に対し、152.12円/USDで円安に推移。

セグメント別売上高・損益

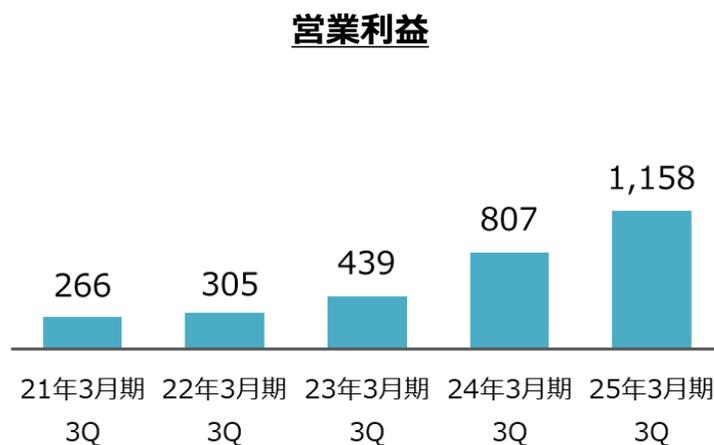
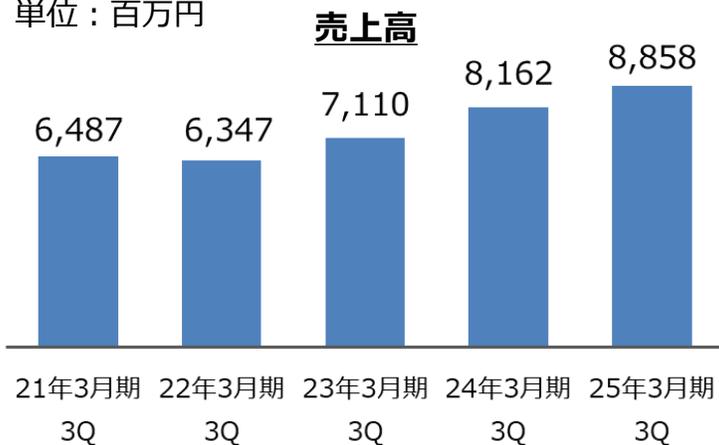
単位：百万円		2024年3月期3Q	2025年3月期3Q	増減額	増減率
船舶港湾機器	売上高	8,162	8,858	+697	+8.5%
	営業利益	807	1,158	+351	+43.6%
油空圧機器	売上高	8,497	8,376	▲120	▲1.4%
	営業利益	78	179	+101	+130.5%
流体機器	売上高	2,690	3,056	+365	+13.6%
	営業利益	62	183	+121	+195.7%
防衛・通信機器	売上高	9,089	11,962	+2,873	+31.6%
	営業利益	▲863	▲367	+496	—
その他	売上高	2,266	1,988	▲278	▲12.3%
	営業利益	149	▲44	▲193	—
合計	売上高	30,704	34,241	+3,537	+11.5%
	営業利益	168	1,054	+886	+527.1%

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

船舶港湾機器事業

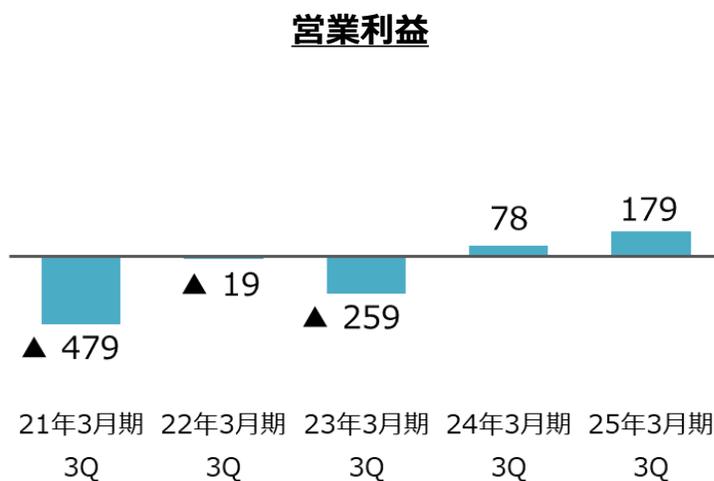
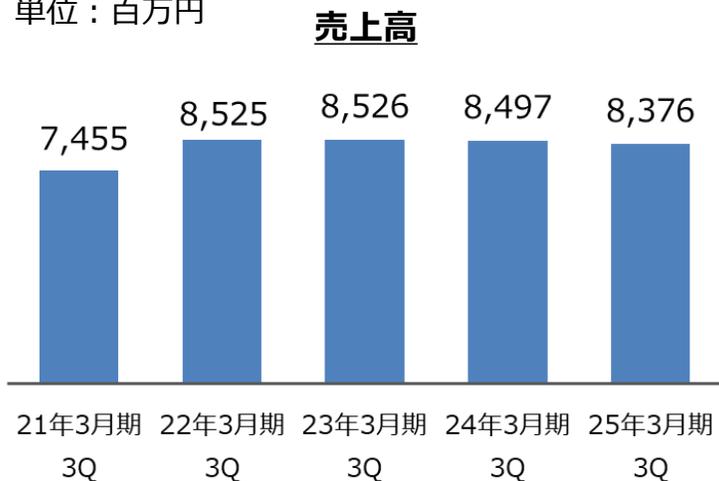
単位：百万円



- 商船市場及び保守サービスが好調に推移したことに加え、海外市場が堅調に推移したこと、及び為替が円安基調であったことから前年同期比で増収。
- 売上高の増加や円安効果により、前年同期比で大幅な増益。

油空圧機器事業

単位：百万円



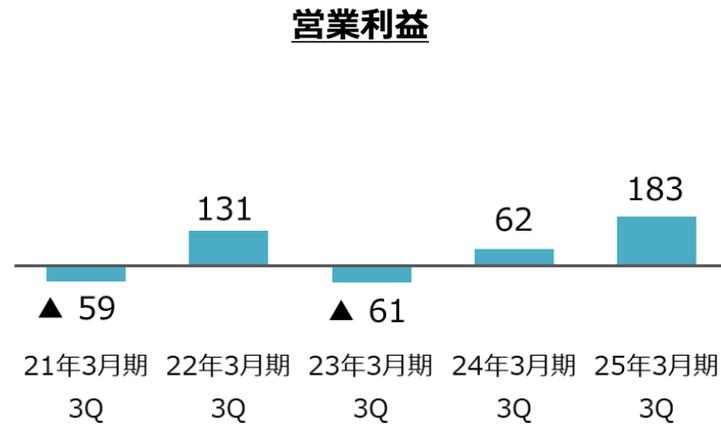
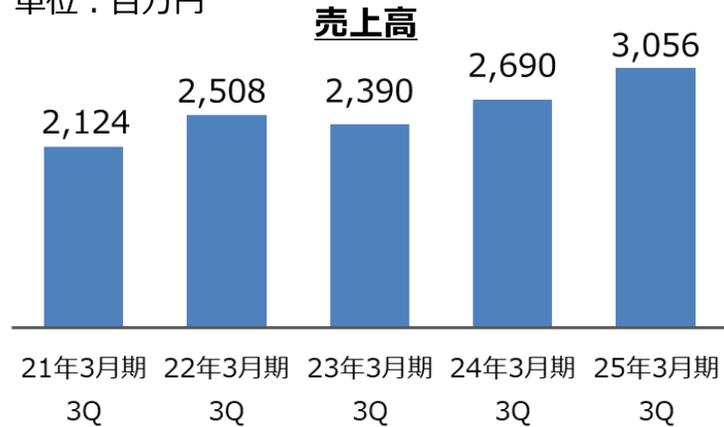
- 海外市場が順調に推移したものの、プラスチック加工機械市場、工作機械市場、建設機械市場が低調に推移し、前年同期比で減収。
- 販売価格の適正化による利益確保の取り組みに加え、油圧応用装置の納入増加等による製品構成の変化により原価率が改善したこと等から、前年同期比で増益。

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

流体機器事業

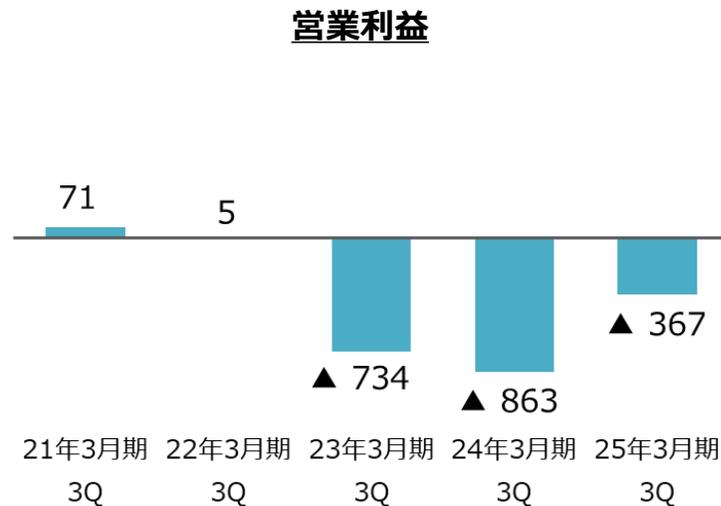
単位：百万円



- 官需市場で大型案件の前倒し、および消火設備市場の立体駐車場向け案件、危険物設備向け案件が好調に推移し、前年同期比で増収。
- 官需市場の売上高の増加により、前年同期比で増益。

防衛・通信機器事業

単位：百万円



- 防衛事業において防衛予算の増加を背景に航空機用レーダー警戒装置や航空機用部品等が好調に推移したことから、前年同期比で大幅に増収。
- 売上高の増加に加え、原価率の高い哨戒ヘリコプター用逆探装置の数量減等による製品構成の変化により、営業損失が大幅に縮小。
- 防衛事業の特性上、販売が第4四半期に集中するため、第3四半期は営業損失となる傾向。

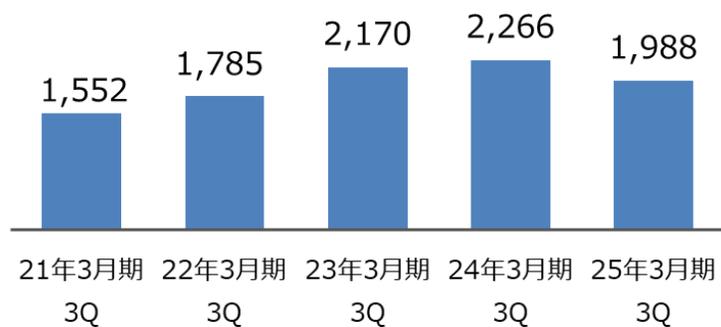
(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別売上高・損益

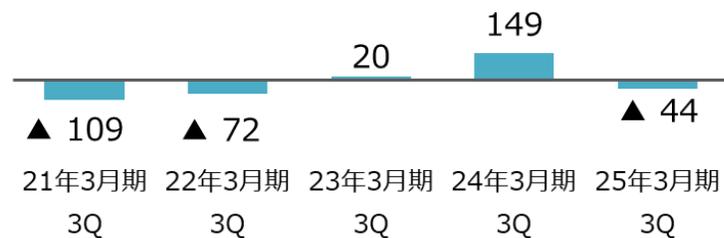
その他

単位：百万円

売上高



営業利益



- 前期の第3四半期までにあった鉄道機器事業の大型案件が今期は無かったため、前年同期比で減収・減益。

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

受注の状況

単位:百万円	受注高				受注残高				概況
	2024年 3月期3Q	2025年 3月期3Q	増減額	増減率	2024年 3月期3Q	2025年 3月期3Q	増減額	増減率	
船舶港湾機器	8,188	9,705	+1,517	+18.5%	4,190	5,263	+1,073	+25.6%	海外市場の新造船向けや保守サービスの需要が好調に推移し、受注高・受注残高ともに増加。
油空圧機器	8,696	8,763	+67	+0.8%	3,638	3,785	+147	+4.1%	海外市場が好調に推移し、停滞する他市場をカバーしたため、受注高、受注残高は前年同期並み。
流体機器	3,803	4,441	+639	+16.8%	2,705	2,907	+202	+7.5%	消火設備市場が好調に推移したため受注高、受注残高はともに増加。
防衛・通信機器	19,374	22,123	+2,749	+14.2%	32,555	43,812	+11,257	+34.6%	防衛予算の増加を背景に、第3四半期の受注高、受注残高ともに過去最高値を更新。
その他	3,190	2,571	▲619	▲19.4%	2,424	2,317	▲107	▲4.4%	鉄道機器事業は、主力の探傷車受注が第4四半期に集中しているため、受注高、受注残高ともに減少。
合計	43,251	47,603	+4,353	+10.1%	45,512	58,084	+12,572	+27.6%	第3四半期までの受注高は過去最高、受注残高も過去最高を更新。

貸借対照表

単位：百万円	2024年3月期	2025年3月期3Q	増減
資産の部			
流動資産	50,863	56,147	+5,284
（棚卸資産）	22,905	29,674	+6,769
固定資産	16,115	18,949	+2,834
（有形固定資産）	7,025	9,379	+2,354
資産合計	66,978	75,096	+8,118
負債の部			
流動負債	21,781	25,512	+3,732
（短期借入金）	8,954	11,179	+2,224
固定負債	7,828	12,058	+4,229
（長期借入金）	5,808	9,657	+3,849
負債合計	29,609	37,570	+7,961
純資産の部			
株主資本	32,901	33,312	+410
その他の包括利益累計額	3,948	3,739	▲209
純資産合計	37,369	37,526	+157
負債純資産合計	66,978	75,096	+8,118

- 流動資産
防衛事業の受注増に伴う仕入の増加により棚卸資産が6,769百万円増加。
- 固定資産
新工場棟（防衛管理棟）竣工等の成長投資、老朽化設備の更新等により有形固定資産が2,354百万円増加。
- 負債の部
大幅な受注増に伴う資金需要に対応するため7,000百万円の借入を実施し、借入金が6,073百万円増加。
- 自己資本比率は49.3%。
引き続き財務健全性を維持。

資料の内容

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

外部環境リスクの状況

	発生事象	対象事業	対応	影響度
材料価格上昇	<ul style="list-style-type: none"> 国内人件費増加による材料費への影響。 電子部品等の値上がりによる材料費への影響。 世界的インフレによる仕入れ価格への影響。 	✓ 全事業	<ul style="list-style-type: none"> 顧客と販売価格の適正化交渉を継続。 調達コストの低減。 	高
	<ul style="list-style-type: none"> 客先予算の圧迫による契約案件の先延ばし。 	✓ 流体	<ul style="list-style-type: none"> 契約案件のモニタリングを強化し、他案件での挽回。 	中
為替	<ul style="list-style-type: none"> 為替変動が不透明。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 船舶港湾 (+) ✓ 油空圧 (-) ※円安に振れた場合 	<ul style="list-style-type: none"> 1-3Q実績 : 152.12円/USD 4Q予想を 145.00円/USDから 155.00円/USDに見直し。 為替感応度(4Q) : 1円円安変動 営業利益+4百万円 購入部品の値上りに警戒。 	中
中国経済	<ul style="list-style-type: none"> 経済減速による販売への影響。 米中対立による輸出入規制等の影響。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 船舶港湾 ✓ 油空圧 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、先行手配や代替品への切り替えを行う予定。 高付加価値製品の拡販。 他地域での拡販。 	中

2025年3月期 業績予想

単位：百万円	今回予想				前回予想(11月8日)		
	2024年 3月期 実績	2025年 3月期 予想	増減額	増減率	予想	増減額	増減率
売上高	47,166	57,400	+10,234	+21.7%	58,300	▲900	▲1.5%
営業利益	2,768	4,570	+1,802	+65.1%	4,100	+470	+11.5%
経常利益	2,990	4,730	+1,740	+58.2%	4,280	+450	+10.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,277	3,400	+1,123	+49.4%	3,090	+310	+10.0%
売上高 営業利益率	5.9%	8.0%	+2.1%pt		7.0%	+1.0%pt	

- 第4四半期の見通しから、2024年11月8日に公表した業績予想を修正。営業利益、経常利益は過去最高の見通し。

為替レート及び為替感応度

単位：百万円

通貨	為替レート			感応度(4Q)	
	2024年 3月期 実績	2025年3月期		基準	営業利益
		1-3Q 実績	4Q 予想		
USD	144.32円	152.12円	155.00円	1円円安になった場合	+4

- 期初予想レート(対USD): 140円
- 4Q予想レート(対USD): 155円

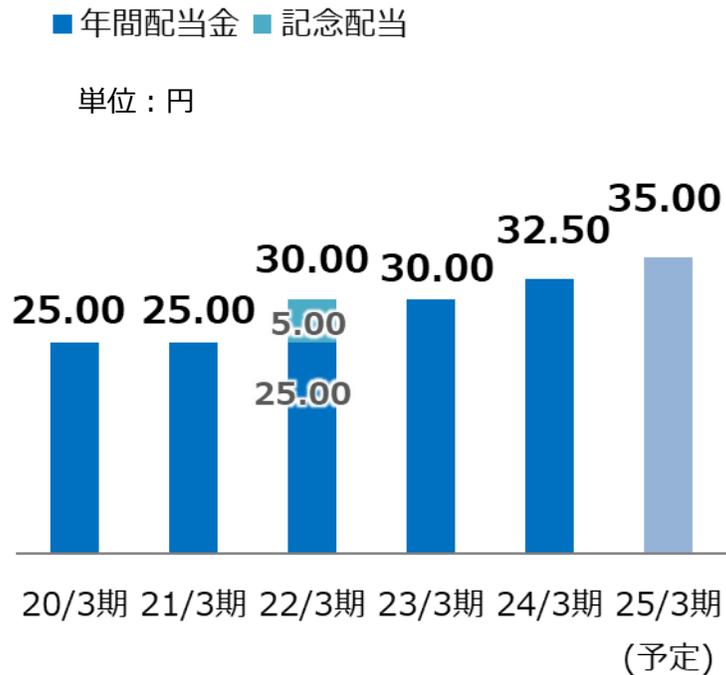
セグメント別業績予想

単位：百万円		今回予想				前回予想（11月8日）			通期の見通し
		2024年 3月期 実績	2025年 3月期 予想	増減額	増減率	予想	増減額	増減率	
船舶港湾	売上高	11,016	12,600	+1,584	+14.4%	12,500	+100	+0.8%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新造船需要や保守サービスが引き続き堅調に推移する見込み。 ■ 円安の継続がプラス影響。
	営業利益	1,006	1,560	+554	+55.0%	1,500	+60	+4.0%	
油空圧	売上高	11,675	11,300	▲375	▲3.2%	11,500	▲200	▲1.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラスチック加工機械市場および建設機械市場は、受注面で回復が見られるが、今期の業績への貢献は僅かの見込みのため減収。 ■ 油圧応用装置が貢献し、前回見通しより増益の見込み。
	営業利益	273	240	▲33	▲12.1%	200	+40	+20.0%	
流体	売上高	4,772	4,900	+128	+2.7%	4,900	0	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消火設備市場は、新設工事が好調を継続。容器弁点検需要はピークアウトしつつも需要の掘り起こしにより利益に貢献する見込み。
	営業利益	733	660	▲73	▲9.9%	520	+140	+26.9%	
防衛・通信	売上高	16,185	24,400	+8,215	+50.8%	25,000	▲600	▲2.4%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防衛事業における購入部品の納入遅れの影響による売上予定の一部案件の後ろ倒しが発生。 ■ 防衛事業における研究開発の一部翌期への繰り越しや製品構成の変化により、前回見通しから増益の見込み。 ■ 通信機器事業は、農業機械向け機器の販売が低調に推移。
	営業利益	362	1,390	+1,028	+284.3%	1,350	+40	+3.0%	
その他	売上高	3,517	4,200	+683	+19.4%	4,400	▲200	▲4.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検査機器事業の需要が低迷し、前回見通しから減収。 ■ 鉄道機器事業等の費用削減効果により増益の見込み。
	営業利益	502	800	+298	+59.4%	620	+180	+29.0%	
合計	売上高	47,166	57,400	+10,234	+21.7%	58,300	▲900	▲1.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前回見通しから売上高は僅かに減少となるものの、営業利益を上方修正。営業利益は過去最高を見込む。
	営業利益	2,768	4,570	+1,802	+65.1%	4,100	+470	+11.5%	

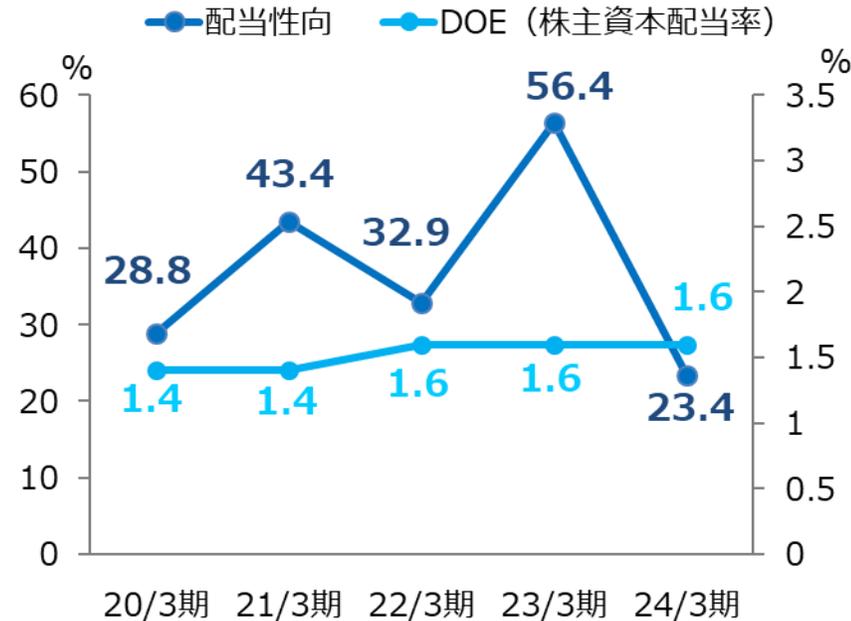
(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

株主還元

配当金の推移



配当性向とDOEの推移



配当基本方針

- 「東京計器ビジョン2030」の実現による企業価値向上に向け、成長投資を最優先としつつ、財務基盤とのバランスを考慮しながら、最適資本構成を意識した最適な株主還元施策を実施する。
- 毎期の配当については、過去の配当実績も勘案し、安定的かつ継続的な株主還元を努める。

配当金

当期

35.00円

※2000年度以降の過去最高を2期連続更新

株主優待

- 対象となる株主様の保有株式数に応じてポイントを贈呈。
- ポイントを株主様限定の特設ウェブサイト「東京計器プレミアム優待倶楽部」において、お好みの商品と交換。
- 詳細は株主様限定ウェブサイトでご確認ください。
<https://tokyokeiki.premium-yutaiclub.jp/>

資料の内容

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し

3. トピックス

<ご参考資料>

- 業績推移
- 事業紹介

1. 新たに艦艇向け防衛製品を受注

当社は防衛機器事業において、艦艇向け機器の開発・量産初号機を新たに受注しました。
なお、本件による今期の業績予想への影響はございません。

【新規受注案件】

当社の主力製品のひとつである航空機向けレーダー警戒装置や逆探装置の技術を応用して、艦艇向けの製品を開発・生産します。

※防衛機器に関する契約案件につき、その他具体的な内容については非開示とさせていただきます。

当社の主な機器

航空機向け

- レーダー警戒装置：戦闘機等
- 逆探装置：哨戒ヘリコプター
相手のレーダー波を受信・分析・識別して、パイロットに警告を出す装置



航空機向けから
艦艇向けに派生

艦艇向け

- 慣性航法装置
船体の姿勢等を高精度に計測・計算し、自船の位置を特定する装置



本新規受注案件

受注案件は、防衛省の「防衛力整備計画」における7つの重視分野における「領域横断作戦能力」に含まれます。

7つの重視分野		
1	スタンド・オフ防衛能力	
2	統合防空ミサイル防衛能力	
3	無人アセット防衛能力	
4	領域横断 作戦能力	宇宙
		サイバー
		車両・艦船・航空機等
5	指揮統制・情報関連機能	
6	機動展開能力・国民保護	
7	持続性・強靱性	弾薬・誘導弾
		装備品の維持整備費・可動確保
		施設の強靱化

出典：防衛省「防衛力整備計画」より抜粋
※黄色部分が当社グループが主に係わる領域

2. 防衛省より慣性航法技術の研究事業を受注

当社は、2024年11月、防衛装備庁と「MEMS-HRジャイロスコープ(以下、HRG)／慣性航法技術の研究」について研究請負契約を締結しました。当社は本研究を通じて、次世代の高精度慣性航法装置の開発を目指してまいります。なお、本件による今期の業績予想への影響はございません。

当社が研究を進めるHRGは、2021年度に防衛装備庁による安全保障技術研究推進制度に採択され、防衛装備庁から委託される形で基礎研究を進めてきました。本研究を通じて新たな要素技術の完成を目指し、官需・民需問わず、市場競争力のある慣性航法装置の開発に取り組んでまいります。

HRGとは

HRG: Hemispherical Resonator Gyroscope (半球共振ジャイロスコープ) は、半球状の共振子を備えた振動ジャイロの一種です。当社が得意とするジャイロ技術にMEMS*技術を応用することで、従来の一般的な慣性航法装置よりも高精度かつ小型化、省電力化が期待され、ドローンをはじめとするさまざまな移動体の自律化・自動化が進む社会において、幅広い応用が期待できます。

*MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) : シリコン基板・ガラス基板・有機材料などの上に、機械要素部品、センサー、アクチュエータ、電子回路などを搭載したミクロンレベルの部品。



HRGの完成予想図

※防衛機器に関する契約案件につき、その他具体的な内容については非開示とさせていただきます。

3. 本社移転について

当社は、下記の通り本社を移転することとしました。

新本社では、継続的な事業拡大に向けて、コミュニケーションの活性化や、多様な働き方に対応するオフィスのあり方、地球環境への配慮などに対応してまいります。移転を通じて、従業員一人ひとりが個性や能力を最大限発揮できる職場環境を構築し、会社のさらなる発展を目指してまいります。

■ HANEDA INNOVATION CITYについて

■ 移転先

東京都大田区羽田空港一丁目1番4号
HANEDA INNOVATION CITY ゾーンB

■ 移転時期

2026年3月（予定）

■ 業績に与える影響

移転に伴う費用については精査中ですが、2025年3月期の業績に与える影響は軽微です。



画像提供：羽田みらい開発株式会社

SOCIAL INNOVATION
先端産業



JAPAN PRESENTATION
文化産業

研究開発施設、先端医療研究センター、コンベンション施設のほか、日本文化、ライブイベントといった体験型施設などが整備された、商業・オフィスなどの大規模複合施設です。

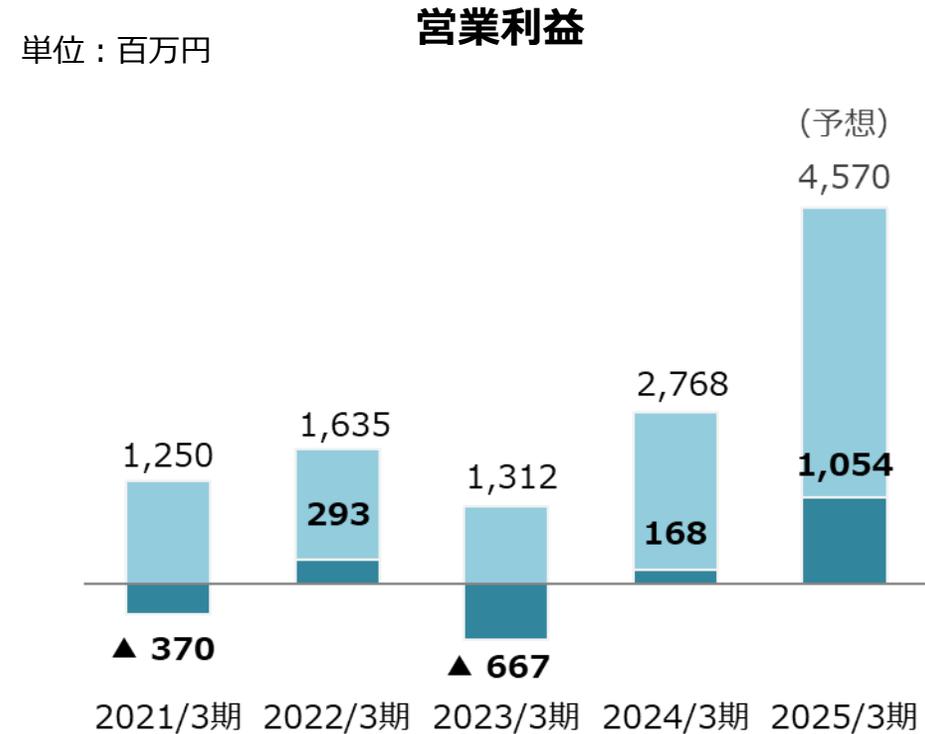
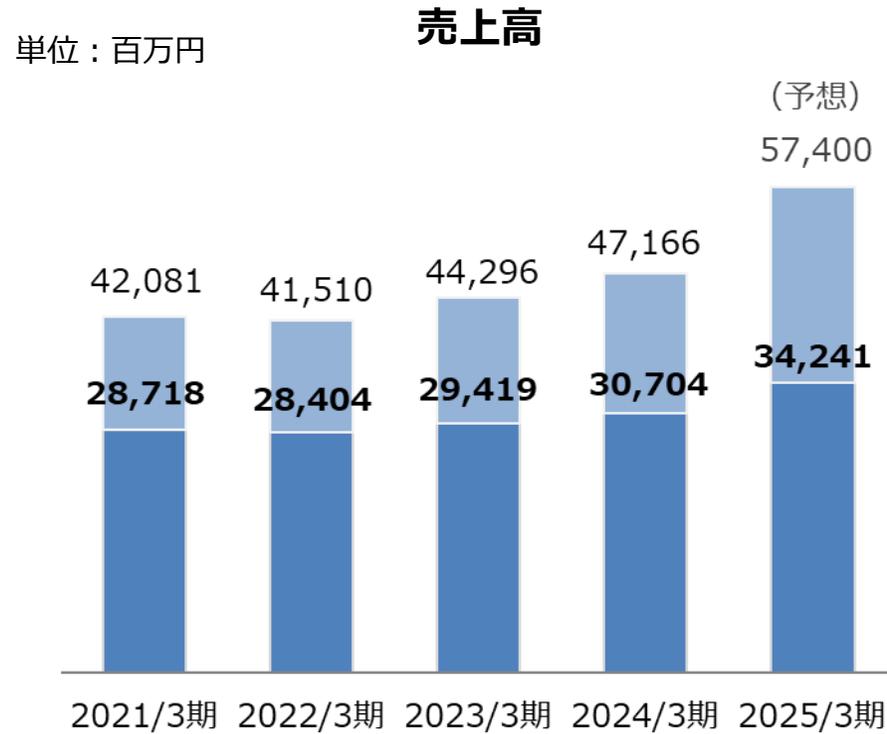
資料の内容

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス

<ご参考資料>

- **業績推移**
- 事業紹介

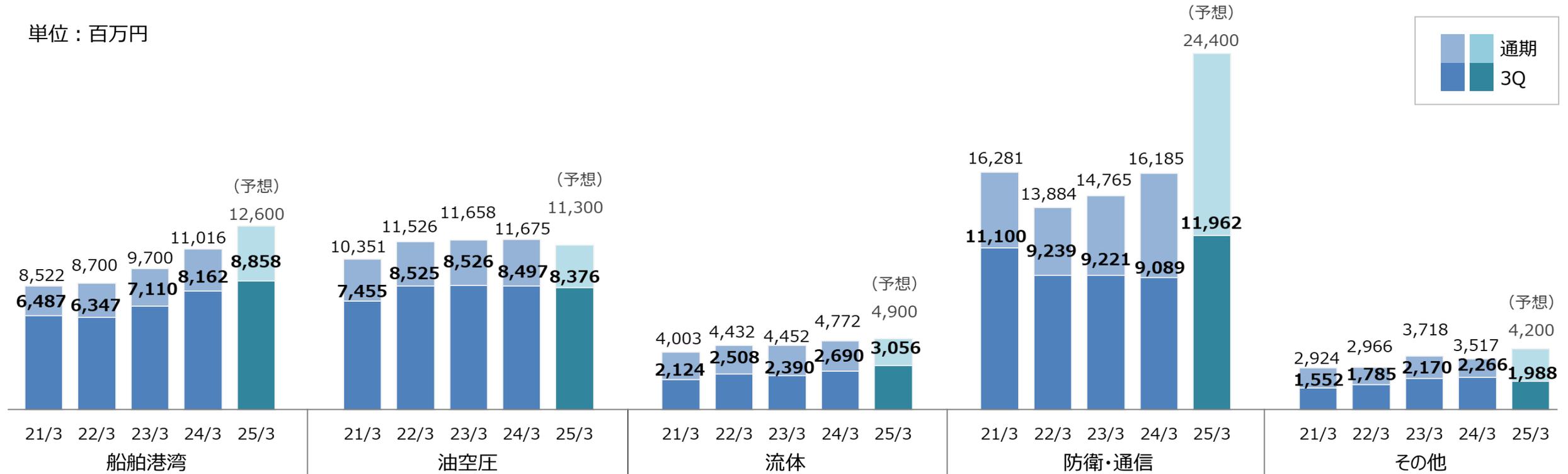
第3四半期 売上高・営業利益推移



単位：百万円	2021年3月期 3Q	2022年3月期 3Q	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
売上高	28,718	28,404	29,419	30,704	34,241	+3,537	+11.5%
営業利益	▲370	293	▲667	168	1,054	+886	+527.1%
経常利益	▲194	577	▲281	346	1,229	+883	+255.2%
四半期純利益	▲137	507	▲179	118	932	+814	+691.1%

セグメント別 第3四半期 売上高推移

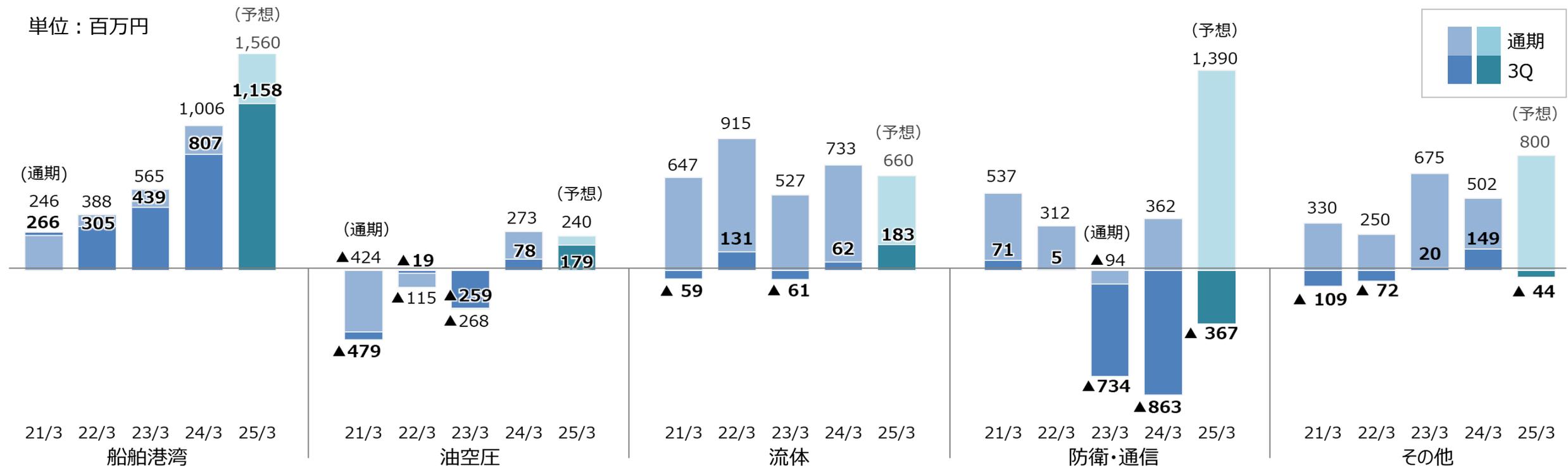
単位：百万円



(単位：百万円)	2021年3月期 3Q	2022年3月期 3Q	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
船舶港湾	6,487	6,347	7,110	8,162	8,858	+697	+8.5%
油空圧	7,455	8,525	8,526	8,497	8,376	▲120	▲1.4%
流体	2,124	2,508	2,390	2,690	3,056	+365	+13.6%
防衛・通信	11,100	9,239	9,221	9,089	11,962	+2,873	+31.6%
その他	1,552	1,785	2,170	2,266	1,988	▲278	▲12.3%

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

セグメント別 第3四半期 営業利益推移

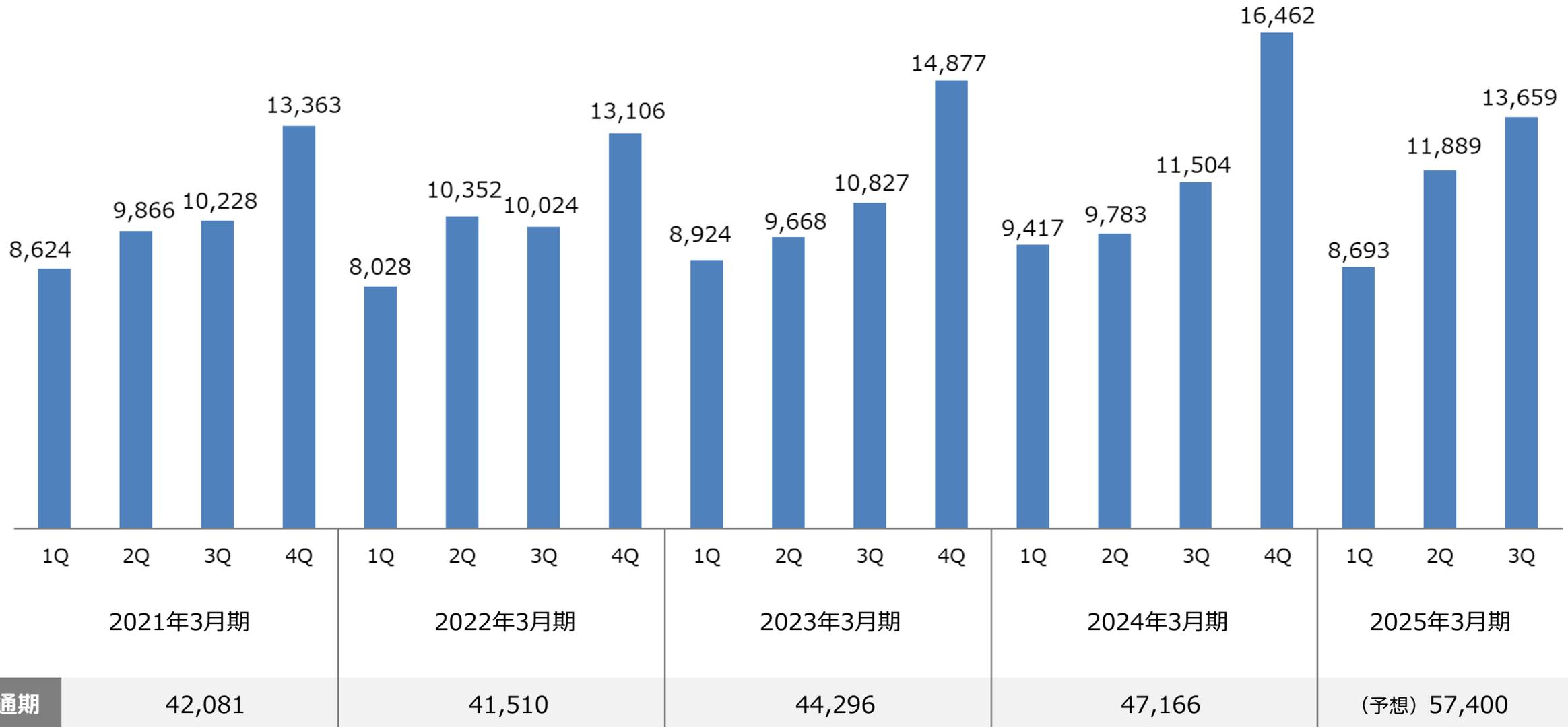


(単位：百万円)	2021年3月期 3Q	2022年3月期 3Q	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	2025年3月期 3Q	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減率)
船舶港湾	266	305	439	807	1,158	+351	+43.6%
油空圧	▲479	▲19	▲259	78	179	+101	+130.5%
流体	▲59	131	▲61	62	183	+121	+195.7%
防衛・通信	71	5	▲734	▲863	▲367	+496	—
その他	▲109	▲72	20	149	▲44	▲193	—

(セグメントの売上高、営業利益は調整前)

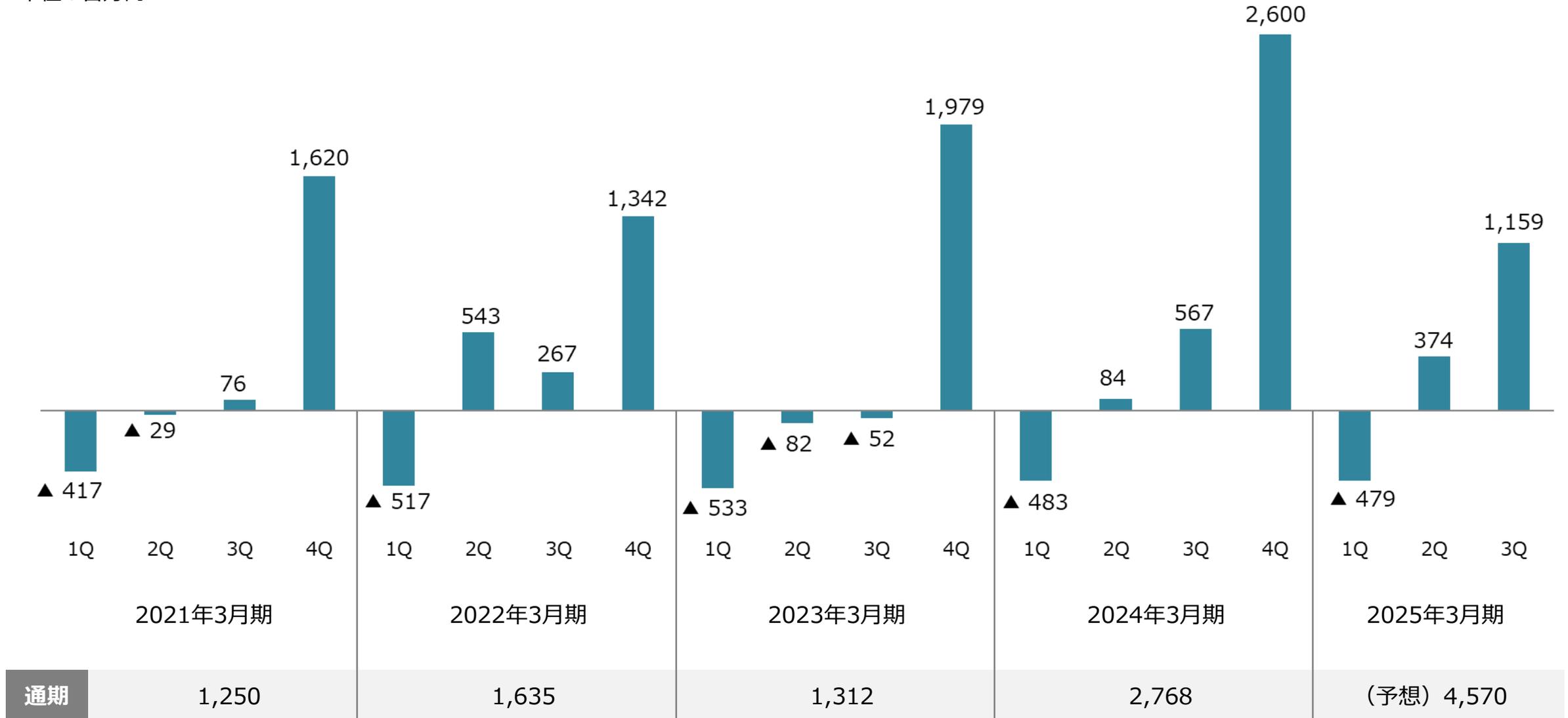
四半期 売上高推移

単位：百万円



四半期 営業利益推移

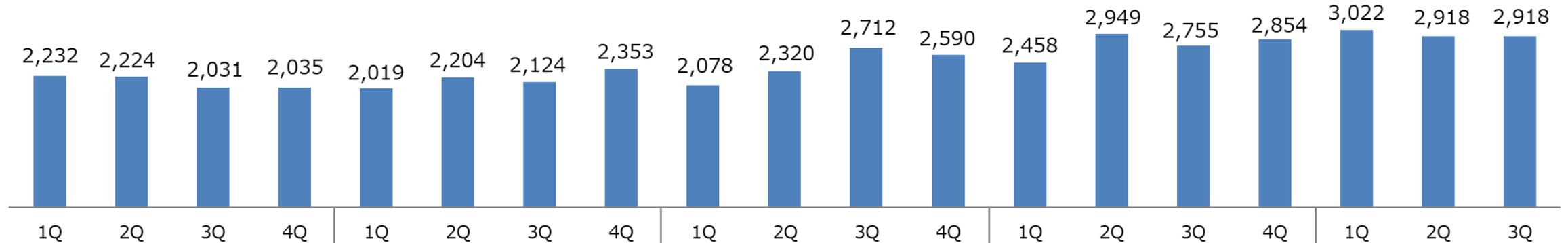
単位：百万円



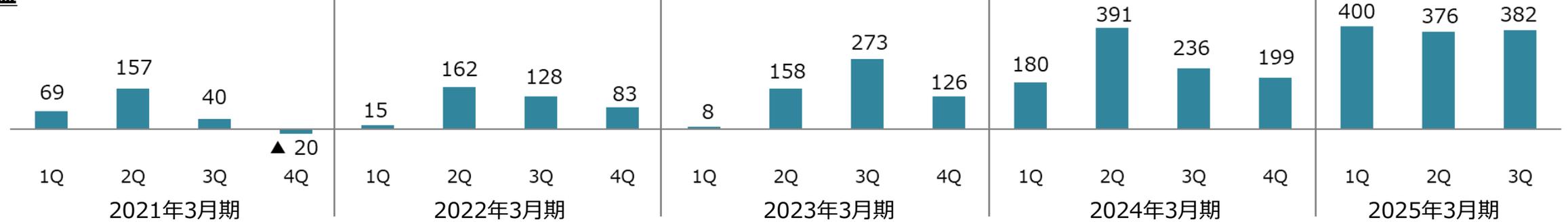
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：船舶港湾

単位：百万円

売上高



営業利益

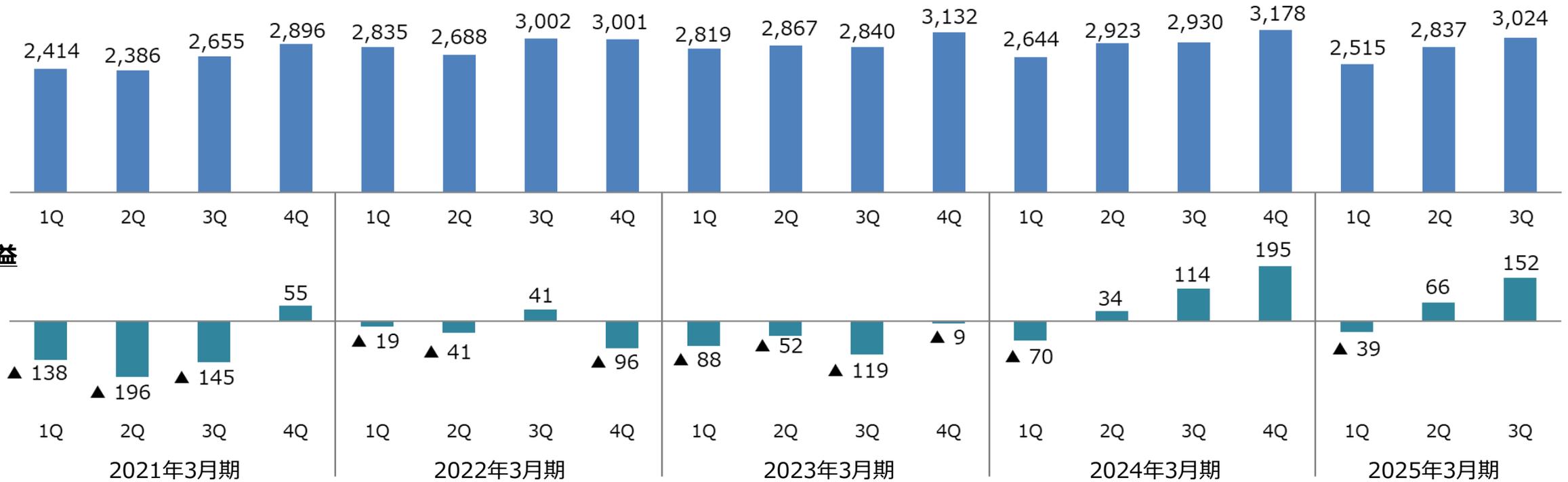


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	2,232	69	2,019	15	2,078	8	2,458	180	3,022	400
2Q	2,224	157	2,204	162	2,320	158	2,949	391	2,918	376
3Q	2,031	40	2,124	128	2,712	273	2,755	236	2,918	382
4Q	2,035	▲20	2,353	83	2,590	126	2,854	199	-	-
通期	8,522	246	8,700	388	9,700	565	11,016	1,006	(予想) 12,600	(予想) 1,560

セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：油空圧

単位：百万円

売上高



営業利益

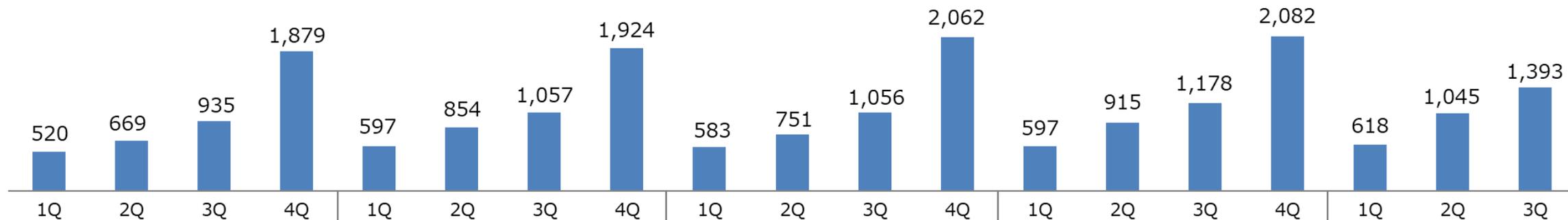


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	2,414	▲138	2,835	▲19	2,819	▲88	2,644	▲70	2,515	▲39
2Q	2,386	▲196	2,688	▲41	2,867	▲52	2,923	34	2,837	66
3Q	2,655	▲145	3,002	41	2,840	▲119	2,930	114	3,024	152
4Q	2,896	55	3,001	▲96	3,132	▲9	3,178	195	-	-
通期	10,351	▲424	11,526	▲115	11,658	▲268	11,675	273	(予想) 11,300	(予想) 240

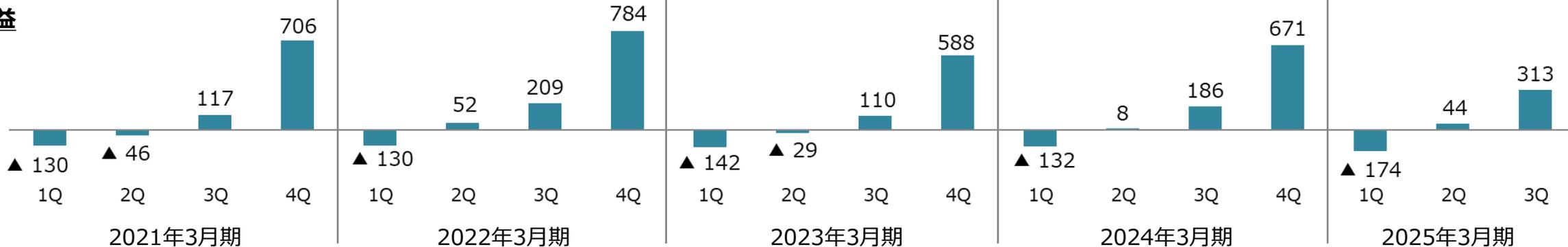
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：流体

単位：百万円

売上高



営業利益

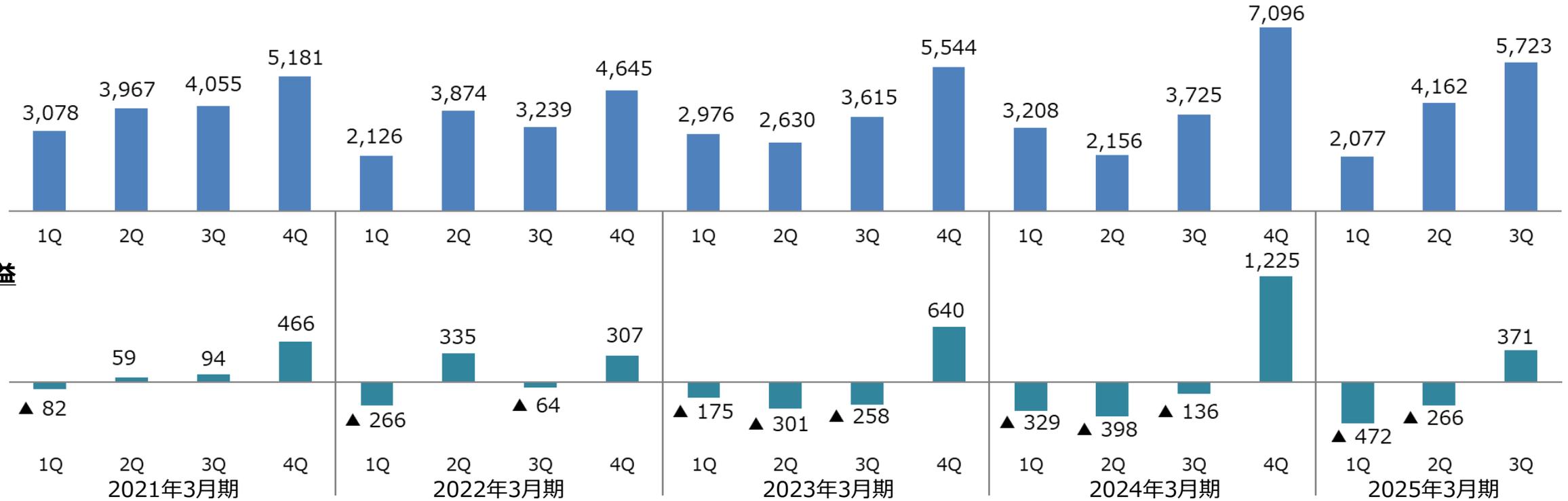


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	520	▲130	597	▲130	583	▲142	597	▲132	618	▲174
2Q	669	▲46	854	52	751	▲29	915	8	1,045	44
3Q	935	117	1,057	209	1,056	110	1,178	186	1,393	313
4Q	1,879	706	1,924	784	2,062	588	2,082	671	-	-
通期	4,003	647	4,432	915	4,452	527	4,772	733	(予想) 4,900	(予想) 660

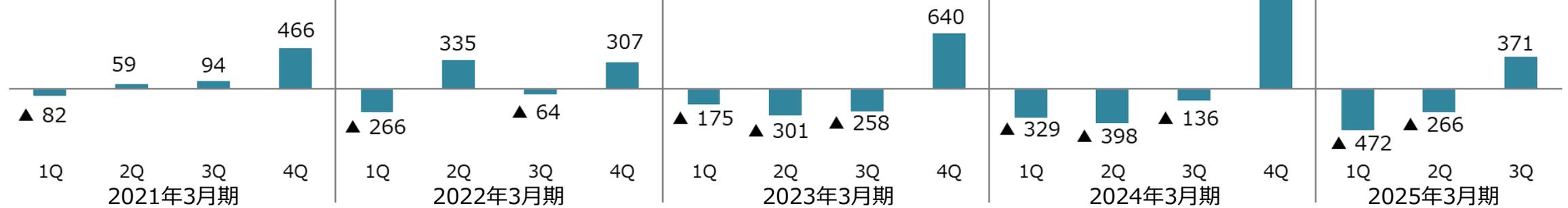
セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：防衛・通信

単位：百万円

売上高



営業利益

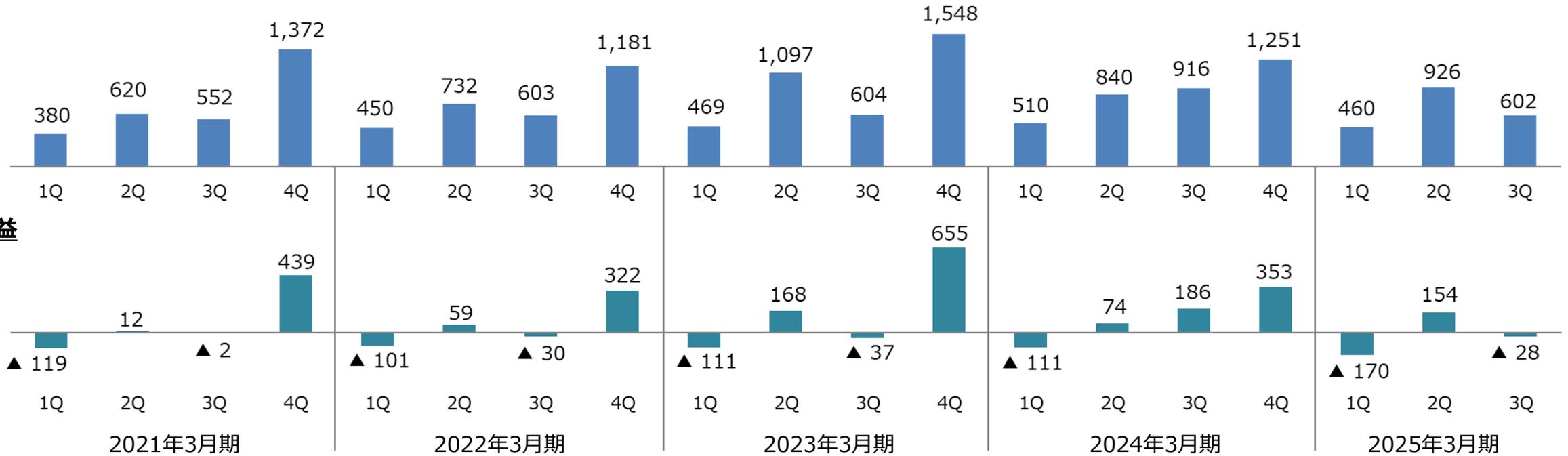


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	3,078	▲82	2,126	▲266	2,976	▲175	3,208	▲329	2,077	▲472
2Q	3,967	59	3,874	335	2,630	▲301	2,156	▲398	4,162	▲266
3Q	4,055	94	3,239	▲64	3,615	▲258	3,725	▲136	5,723	371
4Q	5,181	466	4,645	307	5,544	640	7,096	1,225		
通期	16,281	537	13,884	312	14,765	▲94	16,185	362	(予想) 24,400	(予想) 1,390

セグメント別 四半期 売上高・営業利益推移：その他

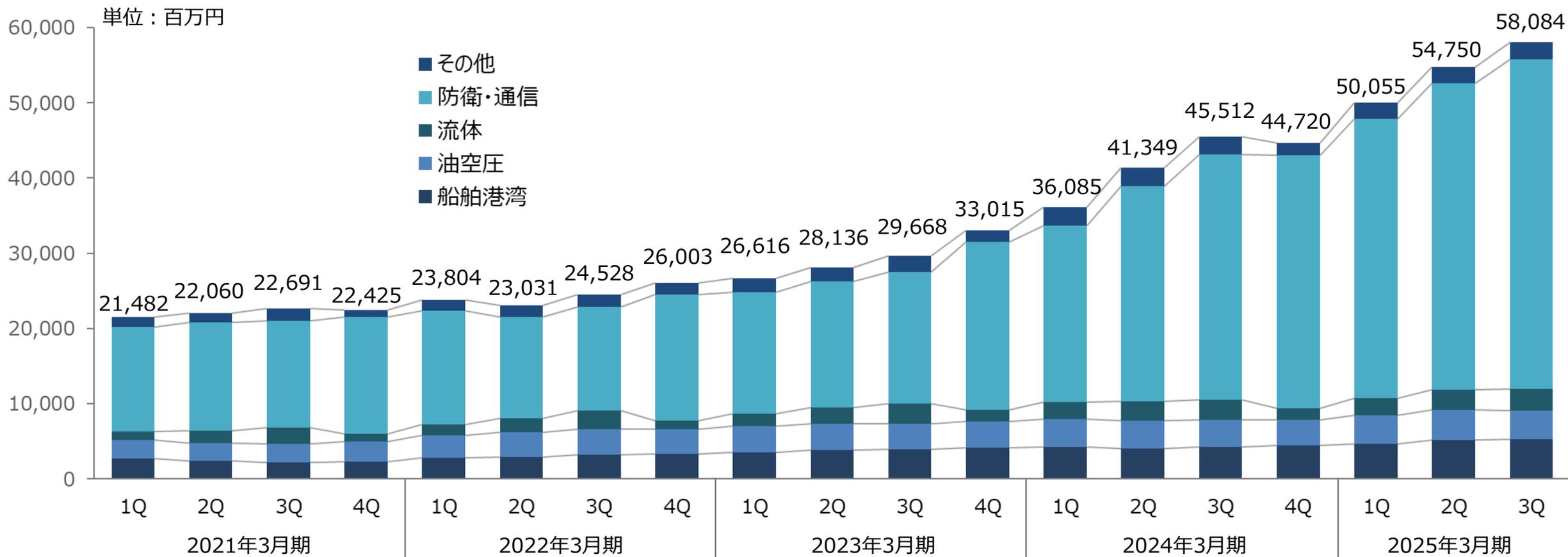
単位：百万円

売上高



	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
1Q	380	▲119	450	▲101	469	▲111	510	▲111	460	▲170
2Q	620	12	732	59	1,097	168	840	74	926	154
3Q	552	▲2	603	▲30	604	▲37	916	186	602	▲28
4Q	1,372	439	1,181	322	1,548	655	1,251	353		
通期	2,924	330	2,966	250	3,718	675	3,517	502	(予想) 4,200	(予想) 800

四半期 受注残高推移

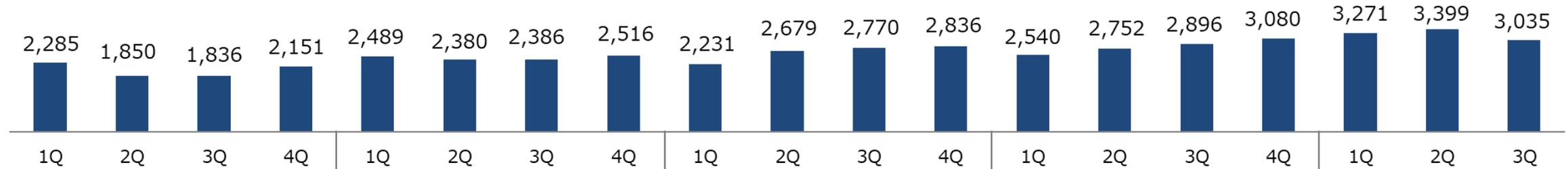


	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
1Q	21,482	23,804	26,616	36,085	50,055
2Q	22,060	23,031	28,136	41,349	54,750
3Q	22,691	24,528	29,668	45,512	58,084
4Q	22,425	26,003	33,015	44,720	

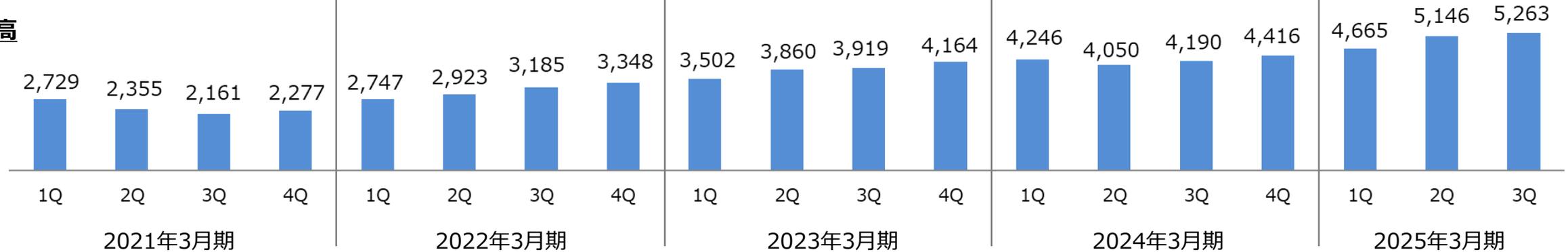
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：船舶港湾

単位：百万円

受注高



受注残高

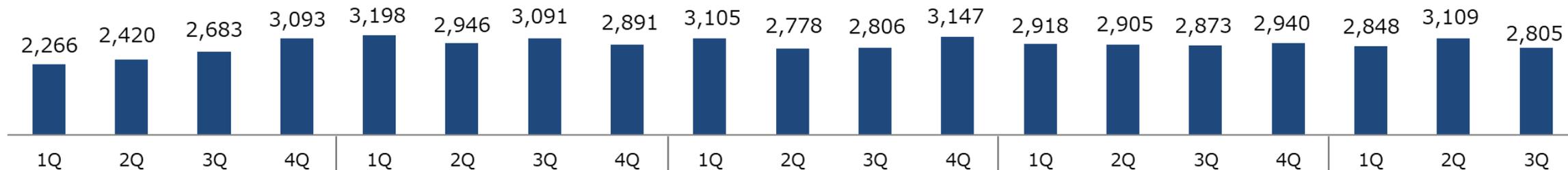


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	2,285	2,729	2,489	2,747	2,231	3,502	2,540	4,246	3,271	4,665
2Q	1,850	2,355	2,380	2,923	2,679	3,860	2,752	4,050	3,399	5,146
3Q	1,836	2,161	2,386	3,185	2,770	3,919	2,896	4,190	3,035	5,263
4Q	2,151	2,277	2,516	3,348	2,836	4,164	3,080	4,416	-	-
通期	8,123	2,277	9,772	3,348	10,516	4,164	11,268	4,416	-	-

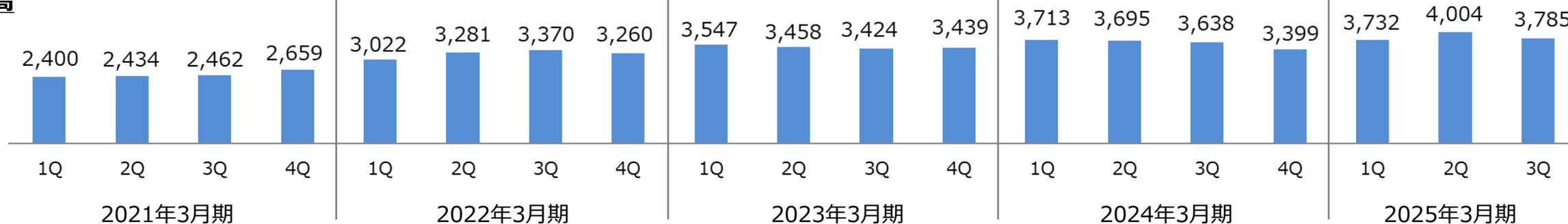
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：油空圧

単位：百万円

受注高



受注残高

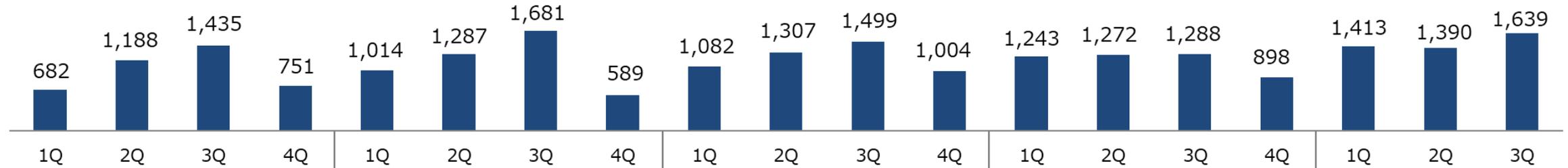


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	2,266	2,400	3,198	3,022	3,105	3,547	2,918	3,713	2,848	3,732
2Q	2,420	2,434	2,946	3,281	2,778	3,458	2,905	3,695	3,109	4,004
3Q	2,683	2,462	3,091	3,370	2,806	3,424	2,873	3,638	2,805	3,785
4Q	3,093	2,659	2,891	3,260	3,147	3,439	2,940	3,399	-	-
通期	10,463	2,659	12,126	3,260	11,836	3,439	11,635	3,399	-	-

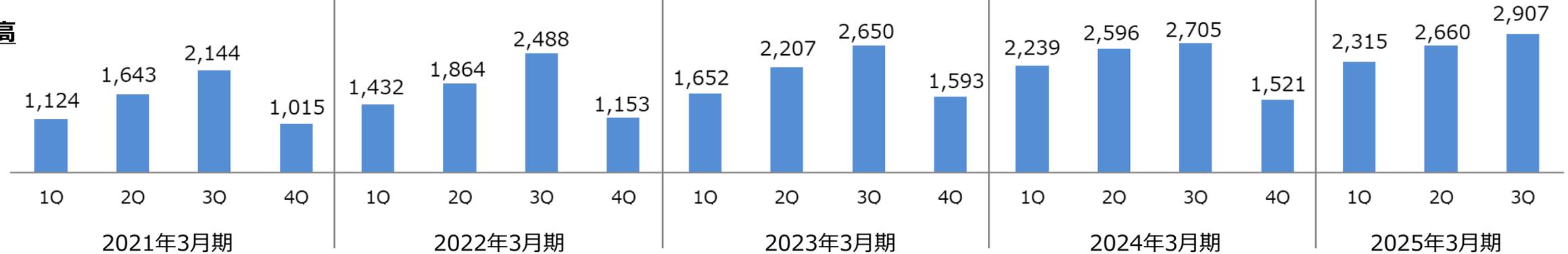
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：流体

単位：百万円

受注高



受注残高

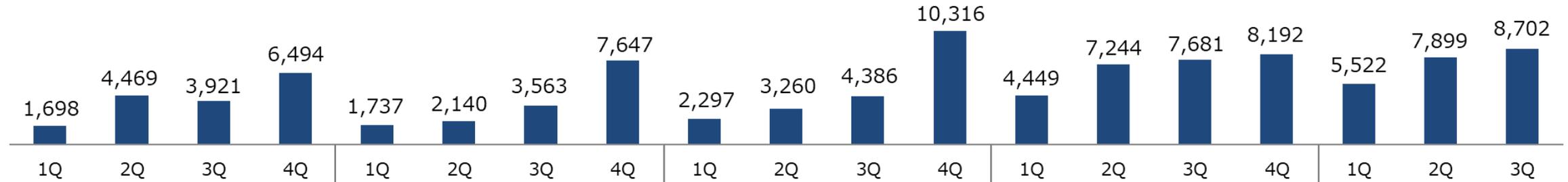


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	682	1,124	1,014	1,432	1,082	1,652	1,243	2,239	1,413	2,315
2Q	1,188	1,643	1,287	1,864	1,307	2,207	1,272	2,596	1,390	2,660
3Q	1,435	2,144	1,681	2,488	1,499	2,650	1,288	2,705	1,639	2,907
4Q	751	1,015	589	1,153	1,004	1,593	898	1,521	-	-
通期	4,055	1,015	4,571	1,153	4,892	1,593	4,700	1,521	-	-

セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：防衛・通信

単位：百万円

受注高



受注残高

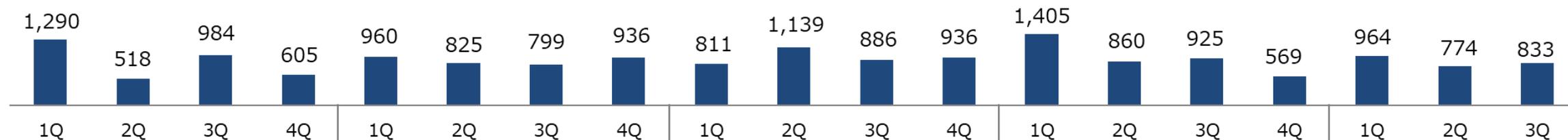


	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	1,698	13,888	1,737	15,182	2,297	16,096	4,449	23,510	5,522	37,096
2Q	4,469	14,389	2,140	13,448	3,260	16,726	7,244	28,598	7,899	40,833
3Q	3,921	14,256	3,563	13,773	4,386	17,497	7,681	32,555	8,702	43,812
4Q	6,494	15,571	7,647	16,775	10,316	22,269	8,192	33,651	-	-
通期	16,582	15,571	15,088	16,775	20,259	22,269	27,566	33,651	-	-

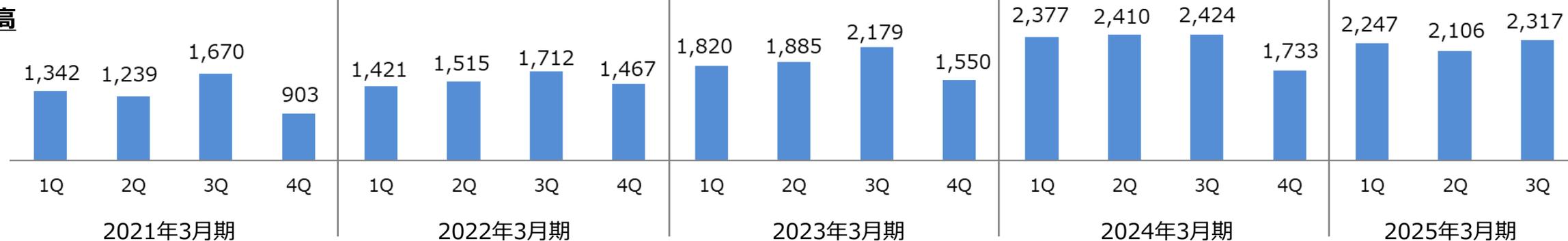
セグメント別 四半期 受注・受注残高推移：その他

単位：百万円

受注高



受注残高



	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期	
	受注高	受注残高								
1Q	1,290	1,342	960	1,421	811	1,820	1,405	2,377	964	2,247
2Q	518	1,239	825	1,515	1,139	1,885	860	2,410	774	2,106
3Q	984	1,670	799	1,712	886	2,179	925	2,424	833	2,317
4Q	605	903	936	1,467	936	1,550	569	1,733	-	-
通期	3,398	903	3,520	1,467	3,771	1,550	3,759	1,733	-	-

セグメント別 四半期 受注残高推移 一覧表

単位：百万円		2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
船舶港湾	1Q	2,729	2,747	3,502	4,246	4,665
	2Q	2,355	2,923	3,860	4,050	5,146
	3Q	2,161	3,185	3,919	4,190	5,263
	4Q	2,277	3,348	4,164	4,416	
油空圧	1Q	2,400	3,022	3,547	3,713	3,732
	2Q	2,434	3,281	3,458	3,695	4,004
	3Q	2,462	3,370	3,424	3,638	3,785
	4Q	2,659	3,260	3,439	3,399	
流体	1Q	1,124	1,432	1,652	2,239	2,315
	2Q	1,643	1,864	2,207	2,596	2,660
	3Q	2,144	2,488	2,650	2,705	2,907
	4Q	1,015	1,153	1,593	1,521	
防衛・通信	1Q	13,888	15,182	16,096	23,510	37,096
	2Q	14,389	13,448	16,726	28,598	40,833
	3Q	14,256	13,773	17,497	32,555	43,812
	4Q	15,571	16,775	22,269	33,651	
その他	1Q	1,342	1,421	1,820	2,377	2,247
	2Q	1,239	1,515	1,885	2,410	2,106
	3Q	1,670	1,712	2,179	2,424	2,317
	4Q	903	1,467	1,550	1,733	

資料の内容

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2025年3月期 通期見通し
3. トピックス

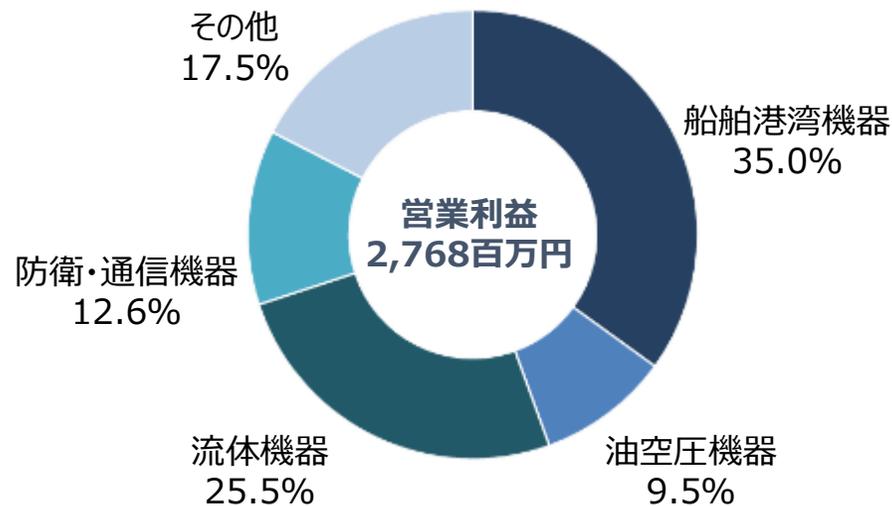
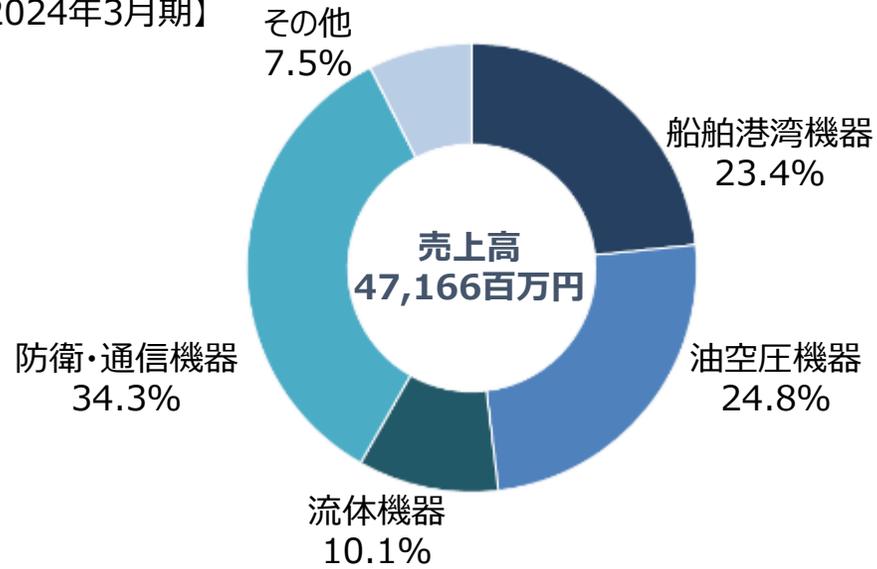
<ご参考資料>

- 業績推移
- **事業紹介**

東京計器グループの主要事業紹介

東京計器グループの事業は4つのセグメント及びその他事業に分かれ、その中に11の事業があります。

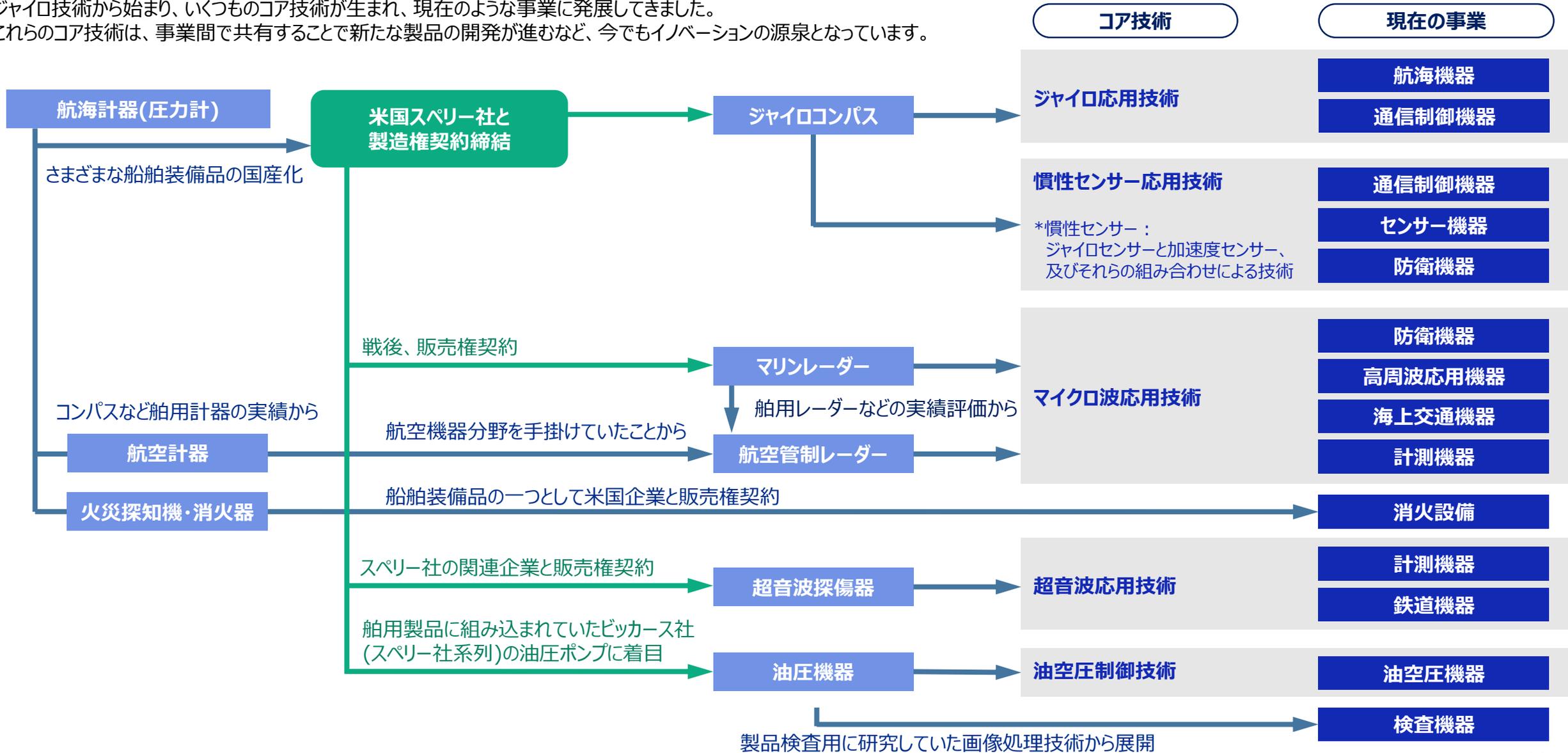
【2024年3月期】



セグメント (4+その他)	事業 (11)
船舶港湾機器事業	■ 航海機器
油空圧機器事業	■ 油空圧機器
流体機器事業	■ 計測機器 ■ 消火設備
防衛・通信機器事業	■ 防衛機器 ■ 海上交通機器 ■ センサー機器 ■ 高周波応用機器 (マイクロ波応用機器) ■ 通信制御機器
その他事業	■ 検査機器 ■ 鉄道機器

コア技術創出の歴史

東京計器グループの事業の源は、明治時代、航海計器の開発に遡ります。ジャイロ技術から始まり、いくつものコア技術が生まれ、現在のような事業に発展してきました。これらのコア技術は、事業間で共有することで新たな製品の開発が進むなど、今でもイノベーションの源泉となっています。



航海機器	船舶の安全航行、省エネ操船に貢献	業界シェア
<p>航海機器</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>自動操舵など 操縦系統を担う オートパイロット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>方位を指し示す ジャイロコンパス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>センサー部に定期交換の 必要な可動部分が無い 光ファイバージャイロ (FOG)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海図情報を表示するECDIS (電子海図情報表示装置)</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 操船に必要な航海計器をトータルでラインナップし、グローバルに提供。 ■ 日本で最初にジャイロコンパスやオートパイロット、レーダーの生産を開始した、航海計器のパイオニア。 	<p>ジャイロコンパス・ オートパイロット</p> <p>世界の商船 6割以上</p> <p>国内内航船 8割以上</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「無人運航船の実現に向けた DFFASプロジェクト」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「ウインドチャレンジャー プロジェクト」</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ジャイロコンパス、オートパイロットのトップ企業として、無人運航船開発プロジェクトやGHG排出削減に貢献する風力推進船プロジェクトに参画。 	

油空圧機器事業

油空圧機器	ものづくり、インフラづくりの現場で活躍	業界シェア
産業機械向け	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>流量や圧力を制御する ポンプ回転数制御システム</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>工作機械や一般産業機械の 油圧動力源として広く利用 される小形パワーユニット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>あらゆる油圧機器に 用いられる電磁切換弁</p> </div> </div> <p>■ 射出成形機、工作機械、自動車製造用ダイカストマシン等に、省エネ・制御性に優れた油空圧機器を提供。</p>	<p>国内プラスチック 射出成形機用 約4割</p>
建設機械向け	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>電気ダイレクト制御ピストンポンプ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コントローラー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ディスプレイ</p> </div> </div> <p>■ 主にクレーン、高所作業車等の特装車向けに油圧製品と駆動を制御する電子機器を提供。</p>	
水素エネルギー活用	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>水素ステーション向け水素圧縮装置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>分割モジュール式水素圧縮パッケージ</p> </div> </div> <p>■ 水素ステーション向け油圧式水素圧縮装置や分割モジュール式水素圧縮パッケージを提供。</p>	

計測機器	暮らしと人命を守る：水資源の管理や河川防災で生活の安全に貢献	業界シェア
<p>流量・水位 監視</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>上水、農業用水、工業用水の監視等に使用される超音波流量計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高精度な流量監視・制御により、無駄のない水資源の有効活用を実現する高精度超音波流量計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>食品工場や石油タンクなどのプラントでも活躍する電波レベル計</p> </div> </div> <p>■ 超音波流量計を世界で初めて実用化したパイオニア。 ■ 超音波流量計は、上下水道や農業用水配管網の流量監視で活躍。</p>	<p>国内上下水道、農業用水向け 6割以上</p>
<p>国土防災</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>河川の水位上昇をいち早く知らせる危機管理型水位計</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>下水がマンホールから溢れ出ることによる都市水害の危険を知らせる溢水対策水位計</p> </div> </div> <p>■ 電波レベル計を利用したシステムで、相次ぐ河川氾濫や都市水害から人命を守る。</p>	
<p>消火設備</p>	<p style="text-align: center;">火災から守る：ガス系消火設備が水濡れ厳禁の施設で活躍</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>水・泡消火が適さない印刷機械などを有する工場施設、オフィスビル、美術館、博物館、立体駐車場などで活躍するガス系消火設備</p> </div> </div> <p>■ 日本で初めて不活性ガス消火設備を手掛けて以来、各種ガス系消火設備で暮らしの安全に貢献。</p>	

防衛・通信機器事業

防衛機器	国防に貢献： マイクロ波応用技術や慣性センサー技術が強み	業界シェア
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>◀ 写真提供： イカロス出版/赤塚聡</p>  </div> <div style="text-align: center;">   </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>航空機を取り巻く電波を瞬時に分析し、危険なレーダー照射などの警報を発するレーダー警戒装置</p> <p>GPSなどを利用した方位測定ができない潜水艦などに搭載される高精度のリングレーザージャイロを用いた慣性航法装置</p> <p>航空機の高度、速度などを計算する対気諸元計算装置（ADC）ブルーインパルス機体にも搭載</p> <p>■ 防衛市場向けの航空機搭載用電子機器や艦艇向け航法装置などの開発・生産・修理保守。</p>	
海上交通機器	船の安全航行に貢献：“海の管制塔”ともいえる海上交通システムを提供	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>東京湾「海ほたる」に設置された海上監視レーダー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>全国7か所の港湾に設置された海上交通センターの管制業務を担うVTSシステム</p> </div> <div style="text-align: left;"> <p>*1 AIS : Automatic Identification System 船舶間や船舶と航行援助施設などとの間で情報交換を行うシステム</p> <p>*2 VTS : Vessel Traffic Services 船舶通航業務</p> </div> </div> <p>■ 混雑する海上交通路の管制業務に必要な、「海上監視レーダー」や「AIS*1情報管理装置」といったVTS*2システムを提供。</p> <p>■ 欧州の湾岸や河川向けにもVTS用レーダーを納入。</p>	<p>全国海上交通センターのVTSシステム</p> <h2 style="color: blue;">100%</h2>

防衛・通信機器事業

センサー機器	慣性センサーや制御技術の組み合わせでスマート農業や防災システムに貢献	業界シェア
 <p>震度測定に不可欠な地震加速度計</p>	 <p>農作業の負担軽減のための農業機械向け直進自動操舵補助装置</p> <p>■ ジャイロ技術、慣性センサー、独自のソフトウェア技術が結集したトラクタ直進自動操舵補助装置でスマート農業を推進。 ■ 気象庁向け地震計に使用される加速度計で国土防災に貢献。</p>	<p>気象庁向け地震計用加速度計 約8割</p>
高周波応用機器	マイクロ波応用技術を駆使し、半導体製造装置部品や宇宙ビジネスなどの先進産業に参入	
 <p>次世代半導体の製造装置などに使用されるソリッドステートマイクロ波電源</p>	 <p>©Synspective Inc. マイクロ波増幅器が搭載された観測衛星（SAR衛星）</p> <p>■ ソリッドステートマイクロ波電源を半導体製造装置に搭載することで、半導体の微細化を実現。 ■ 観測衛星から地表に向けて発するレーダー信号を増幅させるマイクロ波増幅器を提供。</p>	
通信制御機器	ジャイロセンサー、加速度計、磁気方位センサーなどの技術を放送品質向上に活用	
 <p>ヘリコプターの位置と姿勢方位を絶えず把握のうえ、中継アンテナを常に受信局に向けるよう制御し、途切れなく映像を伝送するアンテナ自動指向装置</p>	 <p>放送局の報道ヘリや、国内の主要なマラソン・駅伝中継などで、中継車に搭載されるカメラ防振装置</p> <p>■ 放送局の報道ヘリや中継車に搭載された姿勢制御装置により、安定した映像送信を実現。 ■ 国内TV局の報道ヘリに搭載されているアンテナ自動指向装置により、空撮映像の確実な送信を実現。</p>	<p>国内TV局の報道ヘリに搭載されるアンテナ自動指向装置 9割以上</p>

その他事業（検査・鉄道）

検査機器	印刷の品質向上に貢献：高精度な画像処理技術で印刷や素材のトラブルを検出	業界シェア
 <p>印刷の不良率の削減と印刷品質の確保を実現する印刷品質検査装置</p>  <p>フィルム、不織布、金属箔などの無地素材の生産加工不良や異物混入などを検出する素材検査装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発のチップで、高速リアルタイム画像処理を実現。 ■ 印刷ミスや異物混入を自動で高速に探知し、作業効率向上や材料のムダ排除を促進。 		<p>業界シェア</p> <p>軟包材向けグラビア印刷機向け 国内トップシェア</p> <p>軟包材： プラスチックフィルム、紙、アルミ фольドールなどのような薄い柔軟性のある材料で構成されている包装材</p>
鉄道機器	鉄道の安全運行に貢献：超音波技術を鉄道保線に活用	
 <p>レール内部の傷に対し、超音波探傷による非破壊検査を行うレール探傷車</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ レール探傷器や分岐器検査装置などの測定機器及び検測役務で、鉄道保線業務を支える。 	 <p>複数種の軌道材料の状態を自動で検査・判定する軌道検査省力化システム</p>  <p>分岐器内のレールやクロッシングの摩耗量、軌道変位などを同時に測定できる分岐器検査装置</p>	<p>JR各社・国内民営鉄道向け 超音波レール探傷車 7割以上</p>

将来情報に係るご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。本資料ご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先

東京計器株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 早川

TEL 03-3730-7013

問合せフォーム https://www.tokyokeiki.jp/form/webform_ir.html

ホームページ <https://www.tokyokeiki.jp/>



株式会社シェアードリサーチによるアナリストレポートを公開しています。

日本語版 <https://sharedresearch.jp/ja/companies/7721>

英語版 <https://sharedresearch.jp/en/companies/7721>

本レポートは予告なく公開終了する場合がございます。